



各国での支援活動

ブータン



リモートアーチェリー交流大会開催

世界こども財団では、8月1日（土）、2日（日）に星槎国際高校湘南アーチェリー部とブータンアーチェリー連盟（BAF）をZoomで繋ぎ、2国間リモートアーチェリー交流大会を実施しました。本年が最終学年となる星槎国際高校湘南3年生のニドウ・ドルジ君とソナム・チョデンさんは、JOC エリートアカデミー生と日本代表選手と一緒に「チーム・日本」として参加、一方の「チーム・ブータン」は、12月の南アジア大会で活躍した代表4選手とパラ車いすアーチェリーのペマ選手を揃え参加しました。

本大会は、個人戦予選・決勝・男女ペアのミックス戦を実施し、ニドウ君とソナムさんは「チーム・日本」でミックス

戦に出場しました。初戦はチーム・ブータン（ドルジ選手とカルマ選手）を相手に0-6で敗退。3位決定戦では、もう一組のチーム・ブータン（キンレイ選手とデマ選手）に6-0で勝利し、3位入賞することが出来ました。

尚、同日程で『第1回全国リモートアーチェリー大会』も開催され、両国全員が出場登録を行いました。こちらでは、各々の得点を専用アプリで申請し競い合います。国内外1035選手がエントリーし、カルマ選手（BAF）は自己新656点を記録したことにより女子リカーブ部門で3位に入賞しました。（FGC 石田博彰）



ミックス戦でペアを組むソナムさんとニドウ君



ブータンアーチェリー連盟（一番右手サリーヘッドコーチ）

24時間テレビ

パラスポーツ支援

バスケットボール用車いす寄贈

世界こども財団は、今後、ブータンでどのようにパラリンピックムーブメントを活性化させていくのか、草の根運動を行っていくのかをブータンパラリンピック委員会（BPC）と継続的に協議しています。ブータンは、①サッカー、②バスケットボール、③バレーボールと人気があります。そんな中、BPCよりバスケットボールのpara競技「車いすバスケットボール」の支援依頼がありました。para・サッカーはブラインド・サッカー、同バレーボールはシットティング・バレーボールと草の根運動も進んでおり、バスケットボールの見通しが立っていません。ブータンで人気のあるスポーツがparaを推進することで波及効果が見込める、とBPC担当者から説明がありました。

世界こども財団は、24時間テレビのバスケットボール用車いす贈呈事業について、

同チャリティ委員会にブータン支援の相談を入れ、BPC公認代理団体として申請を行いました。結果、1チーム分5台謹呈して頂きました。今年は50組の応募があり、8団体と個人15名が選ばれ全体で55台が謹呈されました。また、製造元の（株）松永製作所のご厚意により、車いすはブータン王国カラーの黄色とオレンジに着色して頂きました。今後は世界こども財団からBPCへお送りし現地に届ける予定です。（FGC 石田博彰）



黄色とオレンジに着色して頂いたバスケットボール用車いす



BS フジ『JUDO』取材手帳

BS フジでは、柔道の知られざる世界や歴史、人物にスポットを当て、様々な角度から柔道の魅力を紹介するドキュメント番組『JUDO』を放映しています。本年2月、ブータン柔道の現在と歴史ドキュメンタリーが2週に渡って放映されました。その流れから、世界こども財団を通じて来日し、星槎道都大学にスポーツ奨学生として留学しているタンディン・ワンチュク君とキンレイ・ツェリン君（共に経営学部2年柔道部）に密着したドキュメント番組『JUDO～柔道に魅せられた人たちの物語～』が8月15日（土）17:30～17:55に放送されました。

タンディン君とキンレイ君の母国ブータンは、柔道が伝わってから10年しか経っていません。2人は小学生の頃、共通の友人からの紹介で柔道と出会いました。始めたきっかけは、タンディン君はダイエットで、キンレイ君は何か違う新しいスポーツをしたかったからと話してくれました。2人は、柔道をするうちに、柔道の魅力に取りつかれ、今ではブータン柔道界をリードする若手のホープとなりました。

タンディン君とキンレイ君は、昨年来日し今年で2年目を迎えます。2年生として迎えた春、新型コロナウイルスの感染拡大の影響から学校も閉鎖、道場での練習もできなくなりました。2人は帰国することも考えましたが、自身

のこと以上に、日本に来させてもらっていること、お世話になっている方々のこと、自身たちに課せられた責務があること、そして、将来のことを考え、帰国せずに北海道に残ってトレーニングを重ねていくことを決めました。それは「柔道をちゃんと勉強して、ブータンで柔道をもっと広めたい」という強い思いと信念からでした。この番組では、タンディン君とキンレイ君の2人の日々の生活と活動の様子、2人を支える指導者と仲間たち、そして、世界こども財団・宮澤保夫理事長の単独インタビューも行われ、宮澤理事長のその思いについても語られました。

(FGC 石田博彰)



JUDO より一層努力して君が目指した道を駆け上がってほしいです
家族も君が一番よい人生を歩めるように全力でサポートします
家族からのメッセージを聞いている2人



タンディン選手
「もっと強くなって指導者になる」という夢を語るタンディン君



卒業後の夢を語るキンレイ君
ブータンでコーチになって柔道を教えたい



「スポーツのすごい選手をよぶことが本質的な興味ではなく、子どもたちが育って、将来は自分の国に帰り、指導者やコーチになることに注目している。10年前まで、ブータンのような仏教国のスポーツの位置は、とても低いものだった。多くの指導者達はしっかりとしたグラスルーツ(草の根運動)プログラムをやりたい。草の根の形で、地に足をつけて、子どもたちと向き合い育てていきたい。子どもたちも、自分たちの目で確認し、体感しながら「スポーツはこういうものなんだ」と競技に対する理解を深めるところから始め、もしかしたら10年経ったら日本に追いつくかもしれない。私は彼らに夢や希望を見せてあげたい。きちんとした指導者がいて、子どもたちが理解を深め、経験を積んで、そして自分の国に帰ったら、今度は、彼らが将来、次の世代の子どもたちへ教えられるようになる。私は彼らを国の代表として預かっている。彼らの未来を担っている。人生に参加していると思ってやっている」と語る宮澤保夫理事長



独立への軌跡

前号のFGC ニュースでは、5月24日に留学生たちが祖国エリトリアの独立記念日をお祝いした様子をお伝えしました。エリトリアは日本の九州と北海道を合わせた位の面積の小さな国ですが、紅海に面した地理的な重要性から、多くの国から勢力拡大の標的とされてきました。1881年から1941年にかけてはイタリアの植民地となり、大規模な産業の開発が行われましたが、エリトリアの人々は人種差別に苦しみ、独立への思いを強くしました。イタリアはエチオピア、英領ソマリランドを征服し、エリトリアと合わせて「イタリア領東アフリカ」としましたが、1941年イギリス軍の侵攻によりイタリアの支配は崩壊し、イギリスの統治を経て、第二次世界大戦の終了後、国連での決議によりエリトリアはエチオピアとの連邦制をとることとなりました。

しかし1962年エチオピアが軍政となると、エリトリアはその14番目の州として併合されてしまいました。そこから30年にわたり、エリトリアの人々は独立を勝ち取るための戦いを続け、

1991年の5月24日に事実上の独立、1993年に国際的に承認を受け、エリトリアはようやく独立国家としてスタートすることになりました。独立後も周辺国との紛争や制裁措置など、エリトリアの進む道のりは決して平坦ではありませんでした。しかし、2018年のエチオピアとの和平、そして国連での制裁解除と、状況は大きく変わりつつあります。エリトリアの国際社会への進出と、日本とのさらなる友好関係のために、今後も可能な限り支援を続けていきます。(FGC 石井洋祐)



戦争の終結とアスマラの解放を祝うエリトリアの人々 (1991年5月24日)



エリトリア人民解放戦線 (EPLF) の兵士たち

ライトアップ・ホストタウン・プロジェクト

2021年に延期になった東京オリンピック・パラリンピック競技大会。応援する選手の国や地域の文化を知り、交流を行い、大会を越えたつながりを作ろうとするそんなホストタウンに光を当てる、まさにLight Up (ライトアップ) することを目的に立ち上げられた、専用ウェブサイト『世界はもっとひとつになれる Light Up HOST TOWN Project (ライトアップ・ホストタウン・プロジェクト)』が開設されました。本サイト内では、ホストタウンにゆかりのある海外アスリート・サポーターの動画メッセージが掲載されており、ホストタウンのイベント情報や合宿情報などもリアルタイムで更新されます。

世界こども財団は、星槎グループ・神奈川県・小田原市・箱根町・大磯町が共同運営している「SKY プロジェクト」から、エリトリアのデジェン選手(星槎大学)とケセテ選手(星槎道都大学)がティグリニャ語で動画メッセージを送っています。是非ご覧ください。(FGC 石田博彰)

https://host-town.jp/athlete_message/ja/



皆さんのおかげで私たちは日本の四季 陸上環境 恵まれた条件の中で過ごすことが出来てとても感謝しています
デジェン選手とケセテ選手からホストタウンへの応援メッセージ



ホストタウン『世界はもっとひとつになれる』のトップページ



星槎大学の取組み

星槎大学陸上競技部（以下、本陸上部）は、2019年10月に創部されました。現在は10000mを主戦場としているデジェン選手（エリトリア出身）と400mを専門とするペンジョ選手（ブータン出身）の2名が、東京オリンピック出場を目指して活動しています。

本陸上部の特徴は、通信制課程でありながら、アコモデーションコースという通学形態をとっていることです。平日は、午前中に大磯キャンパスで日本語や大学の授業（現在は自宅オンライン授業）を行い、午後から近くの競技場などで練習に励んでいます。

このアコモデーションコースでは、通学制大学のように決められた科目を学ぶだけではなく、通常の練習や試合、合宿などの実践を通して、共生について学びを深め単位化しています。

年間2回の合宿では、ただ単に整った環境で効率の良い練習をするだけではなく、その地域における人や暮らし、歴史や自然を通して、母国との違いを踏まえながら、様々な共生について学んでいます。特に、夏の合宿では、星槎道都大学陸上競技部（以下、道都陸上部）



(左) デジェン君（星槎大学 陸上競技部所属）、(中央) ケセテ君（星槎道都大学 陸上競技部所属）(右) 植村監督（星槎大学 陸上競技部監督）

と合同練習を行うことによって、両大学の選手同士で刺激を受けながら練習をしています。なお、道都陸上部は、11月～3月まで数名の部員が大磯町に滞在しながら、デジェン選手と合同練習を行っています。このように、本陸上部は他大学と違い、競技だけではなく、人と人、人と自然、国と国など様々な共生について学ぶことによって、星槎の3つの約束を踏まえた国際的に活躍できる人材を育成することを目的としています。

2021年は、日本人学生も入部する予定であり、これまでと違った新たな学びの環境が整いますので、選手の更なる活躍を期待していただきたいと思います。

最後に、本陸上部は、植村監督と短距離の川面先生に加えて、道都陸上部の石井監督、田畑長距離コーチ、星槎国際高校陸上競技部の竹澤先生、石塚先生、門馬先生と連携して、選手が活躍する環境をより一層整えています。

(星槎大学 渋谷 聡)



(写真上) デジェン選手と(下) ペンジョ選手の練習中の様子



(左) タンディン君（星槎道都大学 柔道部所属-73kg級）(中央) ペンジョ君（星槎大学 陸上競技部所属）(右) キンレイ君（星槎道都大学 柔道部所属-66kg級）

留学生の夏休み

世界こども財団では、昨年に引き続き、星槎国際高校湘南に通う留学生に、夏休み企画として「ビーチヨガ」を大磯海岸にて開催しました。エリトリア、ブータン、ミャンマーからの留学生8名は、久しぶりの海岸を目の当たりにしてとても喜んでいました。ヨガを通して体の内部や自分自身と向き合うことができ、楽しんでいる様子でした。瞑想では、インストラクターの土屋美加さん

から「自分が思い描いた夢を叶えることができる」という言葉を頂き、一人ひとりが目を閉じ、将来の自分を想像しながら瞑想することができたようです。

また、日本語能力検定の模擬試験を受けるなど、夏休み中でも勉強を怠る事なく、前向きに取り組みました。特別な夏を終え、留学生はそれぞれの目標に向かって、競技練習や勉学に励んでいます。（FGC 木村友香）



大磯海岸でヨガのレッスンを受けている留学生



瞑想中の（左奥から）スーさん、カウン君、



日本語能力試験の模試を受験しているヤミンさん
ナトナエル君

エリトリア、ミャンマーの新留学生 今できることを全力で!

今年度、エリトリアからは陸上競技男女4名、バスケットボール男子2名、そしてミャンマーからは空手競技男女2名を、新たにスポーツ奨学生として星槎国際高校湘南で迎え入れる予定ですが、新型コロナウイルスの感染拡大により、未だに来日が叶っていません。しかし、そのような状況下でも、各国の留学生たちは今できることをひとつひとつ、前向きに取り組んでいます。エリトリアでは各競技連盟のもと、ミャンマーではスポーツ体育学校にて、それぞれの競技の練習に励んでいるほか、日本から送った学習課題やレポートにも取り組んでいます。学習では日本語の基礎的なひらがな、カタカナなどの練習のほか、英語、歴史、数学、科学といった科目も学習しています。エリトリアの女子陸上選手のセバさんは、「私の夢はプロのアスリートになることで、その



ミャンマー：スポーツ体育学校での空手の稽古



ミャンマー：スポーツ体育学校の先生と日本語を学習

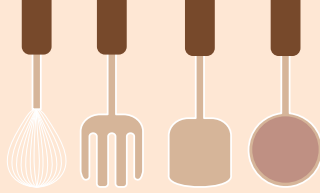


エリトリア：アスマラスタジアムでトレーニング



エリトリア：自宅で学習するセバさん

ためにも、エリトリアの若い女性アスリートのお手本になりたいと思っています。現在の新型コロナウイルスの状況は困難なものですが、勇気と忍耐を持って取り組み、前に進むことを信じています」とメッセージをくれました。彼らが一日も早く日本での生活をスタートできるよう、私たちも準備を進めていきます。（FGC 石井洋祐）



cooking



食欲の秋に辛～いブータン料理



急峻な山岳地帯が多いブータン王国では、食物としての野菜が限られていたため、青唐辛子が香辛料としてではなく、野菜として食べられていました。ブータンからの留学生ソナムさんとニドゥ君も、小さい時からご飯のおかずとして唐辛子を食べていました。子供から年配の方々まで、幅広く愛されている食材です。

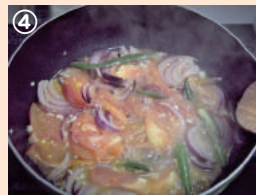
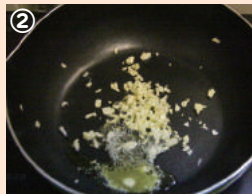
今回ご紹介するのは、ブータンの家庭料理「エマ(唐辛子)ダツィ(チーズ)」です。唐辛子をまるごと使用し、辛さは圧倒的ですが、旨味があるのが特徴です。この機会にブータン料理をご家庭で作られて食欲増進させてはいかがでしょうか。
(FGC 木村友香)



エマダツィ (唐辛子のチーズ煮)

材料 (2人前)

- ・ 青唐辛子…5本 (それ以上でも可)
- ・ トマト (中) …1個
- ・ 赤玉ねぎ (中) …1/2個
- ・ ニンニク…2片
- ・ バター…10g
- ・ チーズ…5枚 (100g程度)
- ・ 塩 適量
- ・ 水 100ml



作り方

- ①材料を切る。
ニンニクは粗みじん切り、トマトと玉ねぎは薄切りにする。
唐辛子はヘタを取り、真ん中を二つに切る。
- ②ニンニクをバターで炒める。
フライパンに火をかけ、バターを溶かしてニンニクを炒める。
- ③野菜を炒める。
玉ねぎを軽く炒め、トマト、そして唐辛子を入れる。
- ④煮込む。
100mlのお水とお塩を入れて全体に火が通るまで10分中火で煮込む。
- ⑤チーズを入れる。
※そのまま全体を混ぜずにフタをし、さらに弱火で10分煮込む。
- ⑥完成!! 白いご飯との相性抜群です!

事務局より

Follow Us
@fgc_seisa



● 世界子ども財団公式Instagramアカウントを開設しました!

日々取り組んでいる活動を発信していきます。また、イベント関連情報や星様に通う留学生の日常にもスポットを当て、随時更新していく予定です。

皆様、フォローやいいねを是非ともよろしくお願いいたします。



2020年9月発行

公益財団法人
世界子ども財団

〒259-0111 神奈川県中郡大磯町国府本郷 1805-2 (星槎グループ内)
TEL. 0463-74-5359 FAX. 0463-74-5374 E-mail: fgc@fgc.or.jp
ホームページ: <http://www.fgc.or.jp> Facebook: 「世界子ども財団」で検索!
印刷: フルサワ印刷株式会社 制作: 岡村直実 (JC ユニット)

